

愛媛資料ネット会報 第36号

# 記録と記憶

2024. 3



■ 論稿

愛媛県立図書館所蔵「愛媛県行政資料」

検索手段の充実について・・・・・・・・・・ 2

柚山 俊夫

■ 活動報告

愛媛資料ネット活動日誌・・・・・・・・・・ 4

(2020年1月～2024年3月)

■ 会則その他

愛媛資料ネット会則・・・・・・・・・・ 12

会報投稿規程・・・・・・・・・・ 13

## 愛媛県立図書館所蔵「愛媛県行政資料」検索手段の充実について 柚山 俊夫

愛媛県立図書館に「愛媛県行政資料」という文書群がある。これは、愛媛県庁の書庫にあった明治期以前の文書群の総称である。文書を綴った冊子（簿冊<sup>ぼくさつ</sup>という）がほとんどで、ほかに地図や書籍もある。愛媛県行政資料は、昭和50年代に、県総務部副部長であった矢野順意氏ら当時の県幹部が貴重な歴史的公文書であると判断し、県庁書庫にあったものを県立図書館に移管した。昭和53年に簿冊目録が作られ、一般に公開され、愛媛県史や松山市史ほかの自治体史編纂に活用されてきた。

同じような明治時代県庁文書は、四国の他の3県にはほとんど残っていない。太平洋戦争の空襲によって県庁が被災して失われたからである。愛媛県では、県庁本館と北側の城山との間に書庫が建てられていたため、4階建てコンクリート造りの県庁本館が戦火を防ぎ、戦前の文書を守ることができたと伝えられている。

愛媛県行政資料は、国から送付されたもの、江戸時代の藩から引き継がれたもの、維新期の8藩時代のもの、石鉄県・神山県時代（明治5・6年）のもの、愛媛県時代（明治6年以降）に作成したものなど、時代区分ごとに排列されている。文書の内容は、太政官や各省、各藩や各県庁の布告や布達、日記、町村から藩への願書・伺書、庶務、土木、学務、社寺、産業など多分野に及ぶ。多くの簿冊には最初に目次があるので、それを読んで調査研究に必要な文書を探すことになる。

利用が多く痛みが激しい簿冊が多く、現在は文書保全のため画像データでの閲覧をお願いしている。しかしこれまで、画像データの検索手段が簿冊目録以外はなかった。貴重な歴史的公文書の利用促進を図るため、令和4年度から検索手段を充実させるよう作業を行っている。

作業は、簿冊にある文書一点一点の情報を入力し、詳細な文書目録と同じような表（エクセル）を作成するものである。これまで作成した目録データを紹介する。

### 官吏履歴

明治時代に県庁に勤務した職員が提出した履歴書や職員名を記録した「官吏履歴」（請求番号M04-3-1～M04-3-20の簿冊20冊）にある人名・出身地・掲載画像番号約4400件（同一人物の重複あり）のデータ。明治時代の人物調査に活用できる。

### 禄高帳

明治4年から6年の間に作成された士族の名簿。「官吏履歴」（前項に未収録）「禄高帳」「元禄帳」「族禄」（請求番号M01-20・M01-21、M01-25～27、M02-7、M02-8-1・M02-8-2、M02-22-1～3、M02-23-1～3、M02-24-1・M02-24-2、M05-8-1～3・M05-8-4の簿冊20冊）にある人名・出身地・掲載画像番号約3万1000件（同一人物の重複あり）のデータ。明治時代の士族人名調査に活用できる。

## 郡地誌町村名

明治10年代に作成された郡地誌に掲載された町村名。宇摩・新居・周布・越智・野間・風早・温泉・久米の8郡の郡地誌(M05-26-1・M05-26-2・M05-27-1・M05-27-2・M05-28・M05-29-1・M05-29-2・M05-29-3・M05-30・M05-31-1・M05-31-2・M05-32・M05-33の簿冊13冊)にある町村名・掲載冒頭画像番号約500件のデータ。探したい町村をすみやかに探すことができる。なお、デジタルアーカイブに掲載の「地誌付郡地図」に描かれた情報と合わせて閲覧することで、当時の景観復元に活用できる。

## 鉄道

明治時代後半の民間鉄道に関する文書綴。四国鉄道・森松鉄道・東予鉄道・久万鉄道・伊予鉄道・森松鉄道・道後鉄道・南予鉄道・宇和島鉄道・住友鉱業鉄道・松山電気軌道(M06-12-1～M06-12-8の簿冊8冊)にある文書名・年月日・関係者名・掲載画像番号など約1000件のデータ。地図や橋梁などの図面も記録。愛媛の鉄道史解明の基本史料として活用できる。

## 学事

学制による小学校の誕生、教育令による小学校の整備、小学校令による尋常小学校の成立の3期の簿冊を目録化。誕生期の学校設立願書には教員の履歴書が付いているものが多い。明治15年から17年にかけて整備期に県が改めて提出させた学校創設伺いには、学校の平面図が付されている。小学校令が公布されると県は新たな規則を定め、郡長が町村の校数や位置の案を県へ申請するようになり、町村ごとに学校・役場位置や通学路(危険箇所を表示)を描いた明治25年の市町村地図が県内全て揃っている。学事「指令本書」「小学校」(M08-11-1～6、M08-12-1～21、M08-12-29～50、M08-12-60～62の簿冊52冊)にある学校名・所在地名・関係者名・年月日・掲載画像番号など約4100件のデータ。小学校創立150周年記念誌作成に役立つ。

## 水産例規

網漁などのさまざまな漁法を描いた彩色図や漁場の景観図、漁業権に関する書類などがある。「水産例規」(M10-1-1～10の簿冊10冊)にある漁法名、網代名、願書題・掲載画像番号など約2800件のデータ。

以上のほか、県内社寺の明細帳にある情報を現在入力中である。県立図書館4階えひめ資料室にあるパソコン端末で、愛媛県行政資料の画像、および紹介した検索データを利用することができる。これまで、画像を一枚一枚丹念に確認するか、簿冊にある目次を読んで探していたのが、人名や町村名、書類名そのほかキーワードを検索すれば、探している文書をすぐに探し出して閲覧することができ、その画像を紙にコピーして入手することもできる。愛媛の近代史に関心のある方は、ぜひ来館して試していただきたい。今後も、県行政資料の検索手段を充実させていきたい。

## 愛媛資料ネット活動日誌

●2020年	
2月8日、9日	第6回 全国史料ネット研究交流集会 in 神戸参加（水松啓太報告、ポスター）
2月15日～ 4月7日	愛媛県歴史文化博物館特別展「四国・愛媛の災害史と文化財レスキュー」共催
2月17日	伊方町古文書調査
2月26日	安倍首相によるイベント自粛要請
3月3日	ホームページ開設
3月18日	浄明院調査（松山市）
4月7日	新型コロナウイルス緊急事態宣言（調査中止）
5月9日	特別推進科研会議（オンライン）
5月27日	松前町三好家文書寄贈
6月5日	松前町太田家文書寄贈
6月10日	成願寺「人形感謝祭」に関する情報提供に伴う調査（松山市）
6月17日	久松常盤会研究受託
7月1日	学内調査再開
8月19日、9 月9日	旧岡田氏住宅リフォームに伴う資料レスキュー（今治市菊間町）
10月16日、 23日	愛媛大学法文学部専門教育科目「伝統文化論」第3・4回「災害時における歴史資料の保全運動とその歴史」「2018年西日本豪雨災害と歴史資料の保全活動」開講（中川）
11月18、19日	大洲市甲冑修復活動
11月19日、 11月30日、2 月8日、2月 15日	愛媛大学共通教育科目第3・4Q「歴史を考える」第7・8回「地域社会の記憶を保全し、継承する」開講（中川）
11月23日	第8回「災害文化と地域社会形成史」研究会開催 共通テーマ「近世近代移行期の地域社会と歴史認識—大名家・藩庁資料伝来の背景を探る」 天野真志（国立歴史民俗博物館）「出羽国佐竹家の由緒をめぐる政治と歴史意識」／胡光（愛媛大学）「高松松平家の家産経営と地域社会」
12月10日	愛媛大学出張講義「人間と文化を考える：地域の「記憶」を保全し、継承する。」開講（愛媛県立松山北高等学校）（中川）
12月18日	歴史文化資料保全西日本大学協議会報告（オンライン） 胡光（愛媛大学・愛媛資料ネット）「愛媛資料ネットの活動について」
（通年）	西日本豪雨水損資料立間村文書修復
（通年）	石鎚黒茶資料調査

(通年)	大名家資料調査
(通年)	新居浜市内古文書調査
<b>●2021年</b>	
2月20日、21日	第7回 全国史料ネット研究交流集会(宮城)参加(佐々木紫帆報告、ポスター)
2月23日	千種家文書調査(西条市)
3月7日	小松温芳図書館調査(西条市)
3月17日	浄明院調査(松山市)
4月7日	浄明院調査(松山市)
4月22日	浄明院調査(松山市)
4月25日～ 5月22日	愛媛県まん延防止等重点措置適用(調査中止)
5月21日	愛媛大学法文学部日本史授業「災害と歴史資料」(胡)
6月18日	小松温芳図書館調査(西条市)
7月7日、8日	大洲市甲冑修復活動
8月17日～ 9月12日	愛媛県まん延防止等重点措置適用(調査中止)
8月30日～ 9月1日	2021年度愛媛大学ミュージアム「博物館実習Ⅱ」(文系B)受託
9月1日	えひめ文化財等防災ネットワーク設立
9月17日	愛媛資料ネット20周年記念公開講演会開催 天野真志(国立歴史民俗博物館)「地域資料の保存と継承をめぐる現在」
10月2日	千種家文書調査(西条市)
11月2日	旧佐伯氏住宅リフォームに伴う資料レスキュー(西条市小松町)
11月27日	「地域歴史文化フォーラム愛媛 安政・昭和南海地震の新研究」開催 大本敬久(愛媛資料ネット)「昭和南海地震による被害状況と地域差」/ 水松啓太(高知城歴史博物館)「高知県における安政・昭和南海地震の災害継承について」/ 川邊優佑(香川歴史学会)「安政地震による讃岐国の被害について」/ 町田哲(徳島資料ネット)「宝永地震と安政地震を経験した村」
(通年)	西日本豪雨水損資料立間村文書修復
(通年)	石鎚黒茶資料調査
(通年)	大洲市内絵馬調査
(通年)	大名家資料調査
(通年)	新居浜市内古文書調査
(通年)	砥部焼関係資料調査
<b>●2022年</b>	
1月19日	古学堂クラウドファンディングへの支援決定(3万円)
1月22日	第14回「災害文化と地域社会形成史」研究会(災害・疾病と地域社会)開催

	寺内浩（愛媛大学）「古代の飢饉・疫病と地域社会」／中川未来（愛媛大学）「近代の疫病と四国遍路」
2月19日、20日	第8回 全国史料ネット研究交流集会（山陰）オンライン参加（胡光報告、ポスター）
2月22日	中四国図書館協議会講演「災害列島の歴史と文化を守る—全国史料ネットの活動」（胡）
3月18日	竹田氏住宅取り壊しに伴う資料レスキュー（松山市）
3月23日	旧立間村史料引き渡し式典参加（宇和島市吉田町）
5月31日、7月26日	愛媛大学共通教育科目第1・2Q「芸術の世界」第7回「自然災害と写真レスキュー」開講（中川）
6月14日	愛媛大学法文学部日本歴史概論授業「災害と歴史資料」（胡）
6月30日、9月20日	関家氏住宅取り壊しに伴う資料レスキュー（松山市）
8月29日～8月31日	2022年度愛媛大学ミュージアム「博物館実習Ⅱ」（文系B）受託
9月30日	愛媛大学法文学部専門教育科目「伝統文化論」第1回「災害と資料保存」開講（胡）
11月22日	愛媛大学法文学部日本史授業「災害と歴史資料」（胡）
11月23日	第18回「災害文化と地域社会形成史」研究会（西日本豪雨の史跡被害と地域社会）開催 常磐井守道・白石尚寛・大本敬久「大洲藩古学堂の被災と復興にむけて」／東信男（丸亀市教育委員会）「国史跡丸亀城の歴史と石垣崩落」
12月18日	歴史文化資料保全西日本大学協議会報告（オンライン） 胡光（愛媛大学・愛媛資料ネット）「愛媛資料ネットの活動について」
（通年）	西日本豪雨水損資料立間村文書修復
（通年）	大洲市内神社絵馬調査
（通年）	大名家資料調査
（通年）	新居浜市内古文書調査
（通年）	砥部焼関係資料調査
<b>●2023年</b>	
1月28日、29日	第9回 全国史料ネット研究交流集会 in 宮崎参加報告（シンポジウム、ポスター） 中川未来（愛媛資料ネット）「つながりを保ち、また創り出すこと—文化財の所在確認とえひめの取り組み—」
2月18日、19日	「地域歴史文化フォーラム愛媛 現地研修会」開催（大洲市、丸亀市）
3月14日	伊方原発資料現地報告会参加
4月8日	特別推進科研報告（神戸市）
5月15日	愛媛大学法文学部日本史授業「災害と歴史資料」（胡）

6月19日	千種家文書調査（西条市）
8月28日～ 8月30日	2023年度愛媛大学ミュージアム「博物館実習Ⅱ」（文系B）受託
9月9日	第22回「災害文化と地域社会形成史」研究会（災害情報と地域社会）開催 胡光（愛媛大学）「小松藩会所日記に見る災害」／天野真志（国立歴史民俗博物館）「明治期の災害情報と記録化」
9月27日	令和5年度えひめ文化財防災対策研修会 in 大洲参加
10月20日	愛媛大学埋蔵文化財調査室より「愛媛大学附属中学校保管サーベル」移管
11月9日	千種家文書調査（西条市）
11月12日	小松温芳図書館調査（西条市）
11月29日	愛媛資料ネット総会・講演会開催 永井紀之（愛媛県立今治西高等学校・愛媛資料ネット）「愛媛資料ネット創設の頃—歴史教育者・地域研究者の視点から—」
12月6日	渡部家文書調査（松山市）
12月17日	第5回 歴史文化資料保全西日本大学協議会参加報告 中川未来（愛媛大学・愛媛資料ネット）「災後・災間期における愛媛資料ネットの取り組みと課題」
（通年）	愛媛大学人文社会科学研究所「日本歴史交流論研究」（中川）寄託資料の整理、目録作成を随時実施
（通年）	大洲市内神社絵馬調査
（通年）	大名家資料調査
（通年）	新居浜市内古文書調査
（通年）	砥部焼関係資料調査
<b>●2024年</b>	
2月17日、18日	第10回 全国史料ネット研究交流集会 in 首都圏（一橋大学）参加（ポスター）
3月2日、3日	国際シンポジウム「大災害時代における地域存続と歴史文化」（神戸大学）報告 胡光（愛媛大学）「西日本豪雨からの復興の象徴—地域歴史遺産継承の新動向—」
3月14日、15日	伊方町古文書調査
3月24日	特別推進科研総括研究会報告（神戸市）
（通年）	大洲市内神社絵馬調査
（通年）	大名家資料調査
（通年）	新居浜市内古文書調査
（通年）	砥部焼関係資料調査

\*全国史料ネット報告ポスターは、以下のとおり。

# 愛媛資料ネット新聞

2020年 2月8日 土曜日

愛媛資料ネット  
愛媛県松山市文京町3  
愛媛大学法文学部  
日本史研究室  
089-927-9316  
ebesu.hikaru.me  
@ehime-u.ac.jp

## 西日本豪雨が歴史資料襲う



▲宇和島市立間公民館 ▲大洲八幡古学堂 ▲宇和島市吉田町立間地区

▼大洲八幡神社文書 2500 点は、大洲市教育委員会と愛媛大学の合同調査のため、前月までに持ち出し無事。古学堂の古典籍・書画が浸水した。江戸時代の私塾・古学堂は、シーボルトの弟子三瀬諸淵・五稜郭設計者武田成章・書家三輪米山らを輩出した。

### 大洲八幡神社浸水 愛媛県歴史文化博物館へ避難

2001年の芸予地震を機に設立された愛媛資料ネットでは、雨の弱まった7月8日から、大洲市内にて歴史資料の救出活動を開始した。調査実績のある旧知の所蔵者と連絡を取り救援要請に応えた。大洲八幡神社古学堂や旧庄屋家など数日で数家の資料群段ボール約20箱を救出し、西予市にある愛媛県歴史文化博物館へ搬入して、洗浄・乾燥・殺菌作業を行った。

四国山地では、6月28日～7月8日の間に愛媛県の年間平均降水量を超える1800mm以上の雨量があり、大雨特別警報が発表された。愛媛県では、7月6～8日に河川氾濫・土砂崩れが起き、被害は家屋全壊615棟、半壊2745棟、浸水2856棟、死者27名(松山・今治・宇和島・大洲・西予市・鬼北町)を数えた。肱川をはじめとする各河川の氾濫や土石流被害が広範に生じたのが、南予地区の宇和島・大洲・西予市域である。



愛媛県の歴史資料救出図

### 宇和島市旧立間村文書が被災 4000件100箱超

7月11日、宇和島市吉田町立間公民館で保管していた旧立間村文書が浸水しているという情報が入った。江戸～昭和時代の引継行政文書約4000件で段ボール100箱以上に及ぶという。隣を流れる立間川が氾濫浸水跡は地面から181cmにあり、周辺地域は瓦礫の山で、水道・電気が止まっていた。1階床面は、まだ泥水で覆われている状況で1階の倉庫に置いてあった文書は濁流に攪乱され、半数は泥だらけで散乱、半数は棚上で若干の浸水が認められた。

### 三崎漁協へ古文書を緊急避難

浸水した100箱以上の文書を一時に乾燥させることは不可能である。この大量の文書を早急に冷凍させ、現状維持することを模索した。救出作業日は、直後の3連休7月14～16日に設定し、冷凍庫と梱包資材の確保に奔走した。大量の梱包資材(段ボールや冷凍バック)を問屋街で入手した。冷凍庫は伊方町三崎漁協から支援の申し出があり、文書の緊急避難を行うことにした。

救出作業日には、県内外からのべ60名以上が集まり、泥の洗浄、冷凍バック封入、段ボール詰めを行い、冷凍庫への移送を行った。資料ネットだけでなく、高校生や地元のお年寄りなどの災害ボランティアの方々や各方面の協力によって、緊急避難は成功した。

▲立間公民館にて、給水車の水で文書を洗浄。  
▼冷凍バックに封入  
高校生も活躍

▲立間村は、江戸時代から昭和30年まで続いたため、江戸～昭和時代の文書が地域の歴史を語る。愛媛みかん発祥地として栄え、愛媛の産業史にとっても重要。

### 愛媛大学で水・木曜日に修復作業

伊達博物館・大洲市立博物館も保全活動

現在は、愛媛大学日本史研究室で、毎週水・木曜日に、学生やボランティアの方が修復・調査作業を継続している。他にも、伊達博物館による宇和島市内の記録資料保全、大洲市立博物館による写真や甲冑などの保全が行われ、資料ネットも協力した。

### 世界の沿岸環境を調査する 愛媛大学 es-BANK の協力

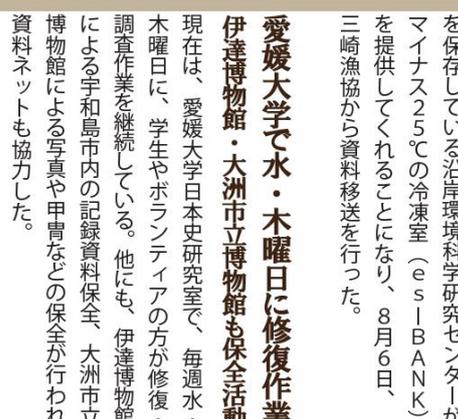
乾燥・殺菌・修復などを経て、内容確認と正常な保存を行うには、時間と作業場所が必要であるため、協力者に迷惑をかけ続けることはできず、新たな冷凍庫への移送が必須であった。愛媛大学では、芸予地震の経験を活かし、災害直後に、大学内に災害対策本部を設置していた。同本部に相談したところ、南極などの調査研究を進め、世界の生物試料を保存している沿岸環境科学研究センターがマイナス25℃の冷凍室(es-BANK)を提供してくれることになり、8月6日、三崎漁協から資料移送を行った。

### 愛媛県文化財ネットワーク設立

愛媛県教育委員会文化財保護課では、全国でも珍しい、県・市町・資料ネット・建築士会で連携する文化財ネットワークを被災3週間前に構想し、被災後の年度末に動き始めた。今年度は、資料ネット会員と市町教育委員会担当者が一堂に集まり、国立歴史民俗博物館天野真志氏の講演とワークショップを開催し西日本豪雨への対応について成果と課題を共有した。来年度には、愛媛大学も組織に加わり、規約も完成する予定である。未筆ながら、保全活動に協力いただいた皆様にご礼申し上げます。

(制作・文責/代表・胡光)

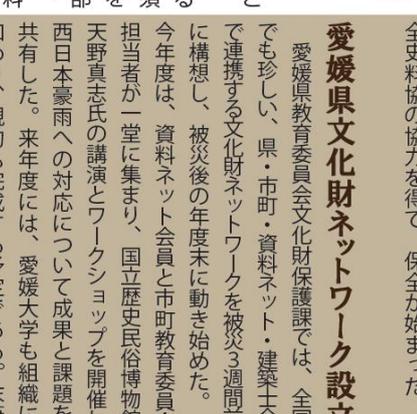
▲愛媛大学でのワークショップ



▲天野真志氏講演

### 全国的博物館や資料ネットの支援

芸予地震の時と違うのは、猛暑の浸水被害に緊急救出を行うため、特殊な資材や施設が必要であったこと、緊急を要したことで、対応を模索しながらの活動した。推進できたのは、大学だけでなく、愛媛県歴史文化博物館、町見郷土館などの機関が施設や備品などを公的に支援してくれたことが大きい。県外からも、香川県立ミュージアム、こうちミュージアムネットワーク、新潟県立歴史博物館、仙台市博物館、国立歴史民俗博物館、歴史資料ネット、宮崎資料ネットなどの支援協力を得た。公的な支援・協力の拡大も、芸予地震時と異なる点である。一方、前回より広域で甚大な被害全てに対応することは困難であった。保全活動が遅れていた西予市役所の現用・半現用文書についても、全史料協の協力を得て、保全が始まった。



▲愛媛大学 es-BANK

# 愛媛資料ネット新聞

2021年2月20日 土曜日

愛媛資料ネット  
愛媛県松山市文京町3  
愛媛大学法文学部  
日本史研究室  
089-927-9316  
eshime@arumc.jp  
eshime-u.ac.jp

# コロナ禍が歴史資料を襲う



▲愛媛大学へ資料を搬送



▲GWにコロナ断捨離した屋根裏



▲松前町の旧家

## 愛媛資料ネットの活動

一〇〇一年三月の芸予地震を機に、伊予史談会と愛媛大学が設立した愛媛資料ネットは、愛媛大学法文学部日本史研究室に事務局を置き、二〇〇四年や二〇一八年の豪雨などで被災した愛媛県内の資料を救出してきました。日常的にも資料に関わる相談を受け付けています。

## 「コロナ断捨離」に対応

昨年は、新型コロナウイルスの影響で外出を控え、家の整理整頓を始める人が多かったため、家庭に眠る歴史資料が捨てられることが予想され、埃をかぶった歴史資料の重要性を訴える「それ、捨てないで」をSNSで連載しました。その結果、通常の三〇倍のアクセスがあり、毎日新聞・愛媛新聞に掲載され、Yahoo!ニュースでも上位にランクインしました。五月末には全国から問い合わせが殺到し、他県の場合は該当する資料ネットの情報提供をし、県内の古文書・襖などを緊急に救出・保存しました。

全ての問い合わせが、先祖の物は捨てたくないが、相談先が分からないという内容で、情報発信の重要性を認識しました。コロナウィルスの蔓延も災害と考え、被災資料（捨てられる資料）の救出を行うとともに、災害資料の保存、すなわち新型コロナウイルス禍の社会を記録する書類・チラシや写真の保存も会員に呼び掛けています。

- ◇ホームページ  
<http://snell.ehime-u.ac.jp/>
- ◇フェイスブック  
<https://www.facebook.com/ehime.sinyou.net/>
- ◇ツイッター  
[https://twitter.com/ehime\\_s\\_n](https://twitter.com/ehime_s_n)



▲2020年5月26日、Yahoo!ニュースランキングで2位となった愛媛資料ネットの記事

## SNSで発信

### 「それ、捨てないで！」

緊急事態宣言が出され、大分県での活動ができなかった二〇二〇年四・五月に、ZOOMで連絡を取り合いながら、今できることを考えました。二〇一八年の西日本豪雨の時に開設したツイッターを用いて、資料の大切さを呼び掛けるツイートを連載しました。そのツイートをそのまま紹介します。

### #断捨離 #ツイイホーム

◆「それ、捨てないで」①  
埃をかぶり、読めない文字で書いてあるものよくわからない紙束：大切な歴史資料かも知れませんが！私達の今までの活動で扱った資料を連載で紹介いたします。お心当たりのある方は、お手元の品を一旦捨てずに、愛媛資料ネットまでご相談ください。（佐々木紫帆）



▲2004年土石流被害にあった新居浜市内の旧住人家に残っていた多喜兵衛田の経世史料

◆「それ、捨てないで」②  
墨で書かれた古い日記や帳簿、万年筆や鉛筆で書かれた昭和の日記、どれも大切な歴史資料です。著者の心情だけでなく、書かれた時代の価値観や社会の様子がリアルに記され、地域の歴史を復元することができます。（佐々木紫帆）

### 伊方町の興寺に

あった埃だらけの文書群のなかから発見された愛媛県最古の道徳日記



### 西日本豪雨で被災した小学校のアルバム



### ◆「それ、捨てないで」③

断捨離中に見つけた一枚の写真。撮影日と名前を頼りにインターネット検索してみると大正十三年の朝鮮総督府職員名簿に名前があった。日韓併合？ 伊藤博文暗殺？ イメージは膨らむ。写真は歴史の証言者となることがある。捨てる前にご相談を。（平井清貴）



### ◆「それ、捨てないで」④

西日本豪雨で被災したアルバムに、昭和の青年団活動写真がありました。運動会、演劇祭り等の活動やファッション、景観など当時の様子をリアルに伝えてくれます。お家の整理をお考えの方は、是非こうした資料がないか、ご確認ください。（水松啓太）

### ◆「それ、捨てないで」⑤

古い襖には、襖紙の下に何重にも和紙が張られています。水をかけてはがしてみると古文書が見つかることもあります。江戸時代のパスポート（往来手形）や法令も出てきました。高校生に手伝ってもらったこともあります。襖はがしてみませんか。（胡光）



### ◆「それ、捨てないで」⑥

祖父母宅の倉庫を取り壊すことになり、見せてもらうと、中には唐箕（とうみ）がありました。制作会社の張り紙も、色濃く残っています。民具や生活道具も大切な資料。ご相談いただければ、お近くの博物館を紹介いたします。（佐々木紫帆）



## 「コロナ断捨離」からの資料救出

全国からSNSへの反響があるなか、愛媛県内から連絡があった要請に応えました。すべて松山市の西隣・松前町からの要請です。松山藩領である松山市から、重信川を渡ると大洲藩領の松前町へ至ります。

松前町は、西日本最大級のショッピングモールエミフル松前や新興住宅地が開発されています。背後には、昔ながらの水田地帯や旧道、旧家が残り、松山城を築く加藤嘉明が最初に入ったのが松前城であるなど、歴史遺産の隠れた宝庫ですが、資料館などの保存公開機関はなく、専門職員も在籍していません。

旧街道沿いにある大正二年に建築された旧家では、GWに屋根裏を掃除したところ、古い襖や衝立、古文書が出てきたとのこと。捨てるのをためらっていたところ、ツイッターを目にして、連絡してくれました。屋根裏へ入ると、きれいに掃除された中にそれらが取り残されていました。襖の下張りには、明治時代の大福帳が確認できました。また、戦前に経営していた牧場の史料も見つかり、戦前に都市近郊で展開した乳業の歴史がよみがえります。大学へ搬入し、保存整理を行うことにしました。

## 四国・愛媛県の活動状況

### ◆四国ミュージアム研究会

SNS #「あつち博物館」各博物館・美術館の展示内容や活動、収蔵品を紹介。

### ◆愛媛県歴史文化博物館

二月十五日から四月七日まで「四国・愛媛県の災害史と文化財レスキュー」展を開催。

### ◆松山市立子規記念博物館

ホームページに「おうちで子規博」新設。名品動画やオリジナルぬり絵・クイズをアップ。

### ◆伊方町見郷土館

町内のコロナ関係文書やチラシなどをデジタルデータや写真で記録。

### ◆愛媛大学ミュージアム

四国道路・世界の巡礼研究センター「日本の巡礼展」を開催するが臨時閉館のため、解説映像をミュージアムチャンネルでオンライン公開（制作・文責／代表・胡光）

# 愛媛資料ネット新聞

2022年2月19日 土曜日

愛媛資料ネット  
愛媛県松山市文京町3  
愛媛大学法文学部  
日本史研究室  
089-927-9316  
ebesu.hikaru.me  
@ehime-u.ac.jp

# コロナ禍が歴史資料を襲う



▲愛媛大学へ資料を搬送



▲GWにコロナ断捨離した屋根裏



▲松前町の旧家

### 愛媛資料ネットの活動

二〇二一年三月の芸予地震を機に、伊予史談会と愛媛大学が設立した愛媛資料ネットは、愛媛大学法文学部日本史研究室に事務局を置き、二〇〇四年や二〇一八年の豪雨などで被災した愛媛県内の資料を救出してきました。日常的にも資料に関わる相談を受け付けています。

## 「コロナ断捨離」に対応

昨年は、新型コロナウイルスの影響で、外出を控え、家の整理整頓を始める人が多かったため、家庭に眠る歴史資料が捨てられることが予想され、埃をかぶった歴史資料の重要性を訴える「それ、捨てないで」をSNSで連載しました。その結果、通常の三〇倍のアクセスがあり、毎日新聞・愛媛新聞に掲載され、ヤフーニュースでも上位にランキングしました。五月末には全国から問い合わせが殺到し、他県の場合は該当する資料ネットの情報提供をし、県内の古文書・襖などを緊急に救出・保存しました。

全ての問い合わせが、先祖の物は捨てたくないが、相談先が分からないという内容で、情報発信の重要性を認識しました。コロナウィルスの蔓延も災害と考え、被災資料(捨てられる資料)の救出を行うとともに、災害資料の保存、すなわち新型コロナウィルス禍の社会を記録する書類・チラシや写真の保存も会員に呼び掛けています。

- ◇ホームページ  
<http://snell.ehime-u.ac.jp/>
- ◇フェイスブック  
<https://www.facebook.com/ehime.siryounet/>
- ◇ツイッター  
[https://twitter.com/ehime\\_s\\_n](https://twitter.com/ehime_s_n)



▲2020年5月26日、Yahoo ニュースランキングで2位となった愛媛資料ネットの記事

## SNSで発信

### 「それ、捨てないで！」

緊急事態宣言が出され、大学内での活動ができなかった二〇二〇年四・五月に、ZOOMで連絡を取り合いながら、今できることを考えました。二〇一八年の西日本豪雨の時に開設したツイッターを用いて、資料の大切さを呼び掛けるツイートを連載しました。そのツイートをそのまま紹介します。

### ◆「それ、捨てないで」①

埃をかぶり、読めない文字で書いてあるものよくわからない紙束…大切な歴史資料かも知れませんが！私達の今までの活動で扱った資料を連載で紹介いたします。お心当たりのある方は、お手元の品を一旦捨てずに、愛媛資料ネットまでご相談ください。(佐々木紫帆)



▲2004年土石流被害にあった新居浜市内の旧庄屋に残っていた多喜浜田の経営史料

### ◆「それ、捨てないで」②

墨で書かれた古い日記や帳簿、万年筆や鉛筆で書かれた昭和の日記、どれも大切な歴史資料です。著者の心情だけでなく、書かれた時代の価値観や社会の様子がリアルに記され、地域の歴史を復元することができます。(佐々木紫帆)

### ◆「それ、捨てないで」③

断捨離中に見つけた一枚の写真。撮影日と名前を頼りにインターネット検索してみると大正十三年の朝鮮総督府職員名簿に名前があった。日韓併合？写真は歴史の証言者となり得る可能性がある。捨てる前にご相談を。(平井清貴)



### ◆「それ、捨てないで」④

西日本豪雨で被災したアルバムに、昭和の青年団活動写真がありました。運動会、演劇祭り等の活動やファッション、景観など当時の様子をリアルに伝えてくれます。お家の整理をお考えの方は、是非こうした資料がないか、ご確認ください。(水松啓太)

### ◆「それ、捨てないで」⑤

古い襖には、襖紙の下に何重にも和紙が張られています。水をかけてはがしてみると古文書が見つかることもあります。江戸時代のパスポート(往来手形)や法令も出てきました。高校生に手伝ってもらったこともあります。襖はがしてみませんか。(胡光)



### ◆「それ、捨てないで」⑥

祖父母宅の倉庫を取り壊すことになり、見せてもらうと、中には唐箕(とうみ)がありました。制作会社の張り紙も、色濃く残っています。民具や生活道具も大切な資料。ご相談いただければ、お近くの博物館を紹介いたします。(佐々木紫帆)



## 「コロナ断捨離」からの資料救出

全国からSNSへの反響があるなか、愛媛県内から連絡があった要請に応えました。すべて松山市の西隣・松前町からの要請です。松山藩領である松山市から、重信川を渡ると大洲藩領の松前町へ至ります。

松前町は、西日本最大のショッピングモールエミフル松前や新興住宅地が展開しています。背後には、昔ながらの水田地帯や旧道、旧家が残り、松山城を築く加藤嘉明が最初に入ったのが松前城であるなど、歴史遺産の隠れた宝庫ですが、資料館などの保存公開機関はなく専門職員も在籍していません。

旧街道沿いにある大正二年に建築された旧家では、GWに屋根裏を掃除したところ、古い襖や衝立、古文書が出てきたとのこと。捨てるのをためらっていたところ、ツイッターを目にして、連絡してくれました。屋根裏へ入ると、きれいに掃除された中にそれらが取り残されていました。襖の下張りには、明治時代の大幅帳が確認できました。また、戦前に経営していた牧場の史料も見つかり、戦前に都市近郊で展開した乳業の歴史がよみがえります。大学へ搬入し、保存整理を行うことにしました。

## えひめ文化財ネットワーク設立

愛媛県教育委員会文化財保護課では、全国でも珍しい、県・市町・資料ネット・建築士会で連携する文化財ネットワークを被災3週間前に構想し、被災後の年度末に動き始めた。2019年度は、資料ネット会員と市町教育委員会担当者が一堂に集まり、国立歴史民俗博物館天野真志氏の講演とワークショップを開催し、西日本豪雨への対応について成果と課題を共有した。今年度には、愛媛大学も組織に加わり、規約も完成した。

愛媛資料ネットは、今年度20周年を迎えネットワークと共催で、天野氏のオンライン講演会を開催しました。2018年に西日本豪雨から救出した資料の修復が終わり、現在は豪雨被害にあった大洲藩古学堂修復への支援を呼び掛けています。(制作・文責/代表・胡光)

# 愛媛資料ネット新聞

2023年1月28日 土曜日

愛媛資料ネット  
愛媛県松山市文京町3  
愛媛大学法文学部  
日本史研究室  
089-927-9316  
ebesuhikaru.me  
@ehime-u.ac.jp

## 西日本豪雨復興は道半ば



▲立間村文書を宇和島市へ返還



▲立間村文書の修復・整理（愛媛大学）



▲立間村文書の救出（立間公民館）

### 修復完了資料の返還式

愛媛資料ネットは、2018年7月の西日本豪雨の時、雨の弱まった7月8日から大洲市内にて歴史資料の救出を開始した。大洲八幡神社古学堂や旧庄屋家などから救出した資料を西予市にある愛媛県歴史文化博物館へ搬入して、洗浄・乾燥・殺菌作業を行った。7月11日には宇和島市吉田町立間公民館から連絡が入り、浸水した旧立間村文書の救出作業を開始した。浸水した100箱以上の文書は伊方町岬漁協や地元の高校生やお年寄りらの支援を得て緊急避難を行った。緊急避難の後、106箱の被災資料は愛媛大学の沿岸環境科学センターの冷凍施設にBANKに預けられた。修復作業は愛媛大学日本史研究室で行われ、水曜日には、学生や一般のボランティアによって進められた。週に一箱のペースで解凍・乾燥作業を行い被災前の目録と照らし合わせながら新しい目録を作成し、整理した。活動は、新型コロナウイルスの流行の影響で遅れがあったものの2022年3月18日に修復が完了した。

西日本豪雨の被災から救出した旧立間村文書106箱のうち、最後の8箱を2022年3月23日に現地へ返還し、記念式典が行われた。式典の開催は大きな社会的関心を呼び、全マスコミにより報道された。旧立間村文書には、江戸時代の資料の他、近代以降の立間村の歴史を知る上で欠かせないみかん栽培や、戦前の災害や学校・公民館の活動の記録等、貴重な地域資料が残っている。修復した旧立間村文書は、次世代への継承に向けて再整理が行われている。

3年間の修復作業に直接関わった人数は、およそ延べ1200人にのぼる。香川県・徳島県のボランティアの方々からは、古新聞を切って送っていただいた。救出や修復活動にご協力いただいた皆様に、深く感謝します。

### 愛媛資料ネットの活動

二〇〇一年三月の芸予地震を機に、伊予史談会と愛媛大学が設立した愛媛資料ネットは、愛媛大学法文学部日本史研究室に事務局を置き、二〇〇四年や二〇一八年の豪雨などで被災した愛媛県内の資料を救出してきました。日常的にも資料に関わる相談を受け付けています。

### 大洲藩領私塾「古学堂」の復興に向けて

大洲八幡神社にある「古学堂」は、享保年間から明治初期にわたり、大洲藩内外のあらゆる身分の人に対して教育に尽くしてきた私塾で、シーボルトの弟子三瀬謙淵・五稜郭設計者武田成章・書家三輪田米山・王政復古に関わった矢野玄道らを輩出した。跡地のうち、図書館部分のみが大洲市指定史跡に指定されているが、教室部分は指定当時、住居であったため、指定からはずれている。このことは、古学堂全体が、災害の公的支援を受けることができないことにつながっている。

2018年西日本豪雨により、1階屋根近くまで浸水し、壁、建物など壊滅的な被害を受けた。被災直後に文庫の書籍は、愛媛資料ネットや愛媛県歴史文化博物館によって救出・修復作業を行った。しかし、大きな被害を受けた建造物の修復は着手されておらず、ようやく昨年6月から始まったが、莫大な修復費捻出が課題であった。

修復に向け、大洲史談会を中心とした大洲古学堂保存会が立ち上げられ、クラウド・ファンディングで修復費用の募集が行われた。インターネットで発信を行い、各メディアや市内各団体での講演で古学堂の危機を訴え、県内外に協力が呼びかけられ、愛媛資料ネットも協力した。全国の多くの方々から支援や助成を得られ、現在も古学堂の内部調査や修復が進んでいる。また、古学堂の歴史や古来の伝統を学ぶための講座やワークショップ等のイベントが行われており、次世代への継承に向けて活動している。

<https://www.facebook.com/ozukogakudo/>



▲私塾古学堂  
右側が図書館、左側が教室



▲百年前に隣市より曳いてきたという旧家の解体から襖を救出

### SNSで発信し旧家の襖救出 博物館実習で解体

2022年3月15日、松山市高岡町のT氏から連絡をいただき、襖下貼文書の救出を行った。家は、かつてT氏の祖父が購入したもので、現在の東温市にあった庄屋家のもので伝わる。当日は、襖の引き取り、屋根裏調査、概要の聞き取りを行った。

T氏は、家の解体の際に襖に下貼り文書を発見し、歴史資料ではないかと破棄に不安を感じていたところ、「松山市」「歴史」などのキーワードで検索し、愛媛資料ネットのホームページを発見して連絡をくれた。

持ち帰った襖は、愛媛大学ミュージアムにおける博物館実習で解体が行われ、資料ネットが講師を務めて作業を行った。文書は三層に貼られており、年貢関係の横帳が使用されていた。表紙と思われる文書からは、「天明八」「文政元」年頃の年号や、「浮穴郡吉久村」「吉久村御年貢米大仕掛免割目録」が読み取れる。この家が浮穴郡吉久村（東温市）から松山市高岡町に移築されたことの裏付けにもなった。解体後の文書は、博物館実習の成果として、現在愛媛大学ミュージアムに展示されている。



◀博物館実習で襖をはがす

### 建造物復興は、まだこれから

四国では、大洲古学堂以外にも、西日本豪雨の被害からの復興がまだ進められているところがある。その代表が、国史跡・丸亀城である。

西日本豪雨の後、崩落した三の丸石垣は現状記録をとりながら崩落石垣の撤去と埋蔵文化財調査を並行して行いながら、工事を行っているため、まだ積み直しに至っていない。調査では、崩落石垣の下から大坂城石垣並みの高石垣が出現したり、新たな研究成果が生まれている。



◀◀ 国史跡丸亀城跡



### 愛媛資料ネット

- ◆ ホームページ  
<http://net.ihime-u.ac.jp/>
- ◆ フェイスブック  
<https://www.facebook.com/ehime.sinyou.net/>
- ◆ ツイッター  
[https://twitter.com/ehime\\_s\\_n](https://twitter.com/ehime_s_n)

（制作）小泉柚乃・胡光

## 【愛媛資料ネット会則】

(名称)

第一条 本会の名称は、愛媛資料ネットという。

(目的)

第二条 本会は、以下の目的を達成するための活動を行う。

- 1 災害発生時に文化財・歴史資料の救出保全活動を行うこと。
- 2 県内にある文化財・歴史資料の調査を行い、それらの防災及び地域史研究への利用に資すること。

(会員)

第三条 本会の趣旨に賛同する者は会員になることができる。

(役員)

第四条 本会の役員として、代表・顧問・委員・事務局長を置く。代表は本会を代表して会の運営にあたる。

ただし、重要な案件が生じた時は委員会あるいは総会に諮るものとする。

(事務局)

第五条 本会の事務局を置く場所を総会によって定める。

(会計)

第六条 本会の経費は、当面は募金によるものとし、会費は徴収しない。

(設立)

第七条 本会の設立日は、芸予地震被災資料救出ネットワーク愛媛（略称 愛媛資料ネット）が設立された平成13年3月30日とする。

附則 この会則は、平成28年7月2日から施行する。

附則 この会則は、令和元年7月18日から施行する。

(別表)

愛媛資料ネット役員名簿ならびに事務局所在地

代表：胡光

顧問：内田九州男、川岡勉、武智利博、寺内浩、徳永高志、西尾和美、西村浩子、森正康、山内譲

委員：小林真吾（新居浜市）、久葉裕可（新居浜市）、友澤明（西条市）、大成経凡（今治市）、永井紀之（今治市）、藤本誉博（今治市）、山口由等（松山市）、谷若倫郎（松山市）、柚山俊夫（松山市）、中川未来（松山市）、白石尚寛（大洲市）、井上淳（西予市）、大本敬久（西予市）、志後野迫希世（宇和島市）、畑野亮一（内子町）、高嶋賢二（伊方町）、藤本吉信（愛南町）

事務局長：川島佳弘

事務局：愛媛大学法文学部日本史研究室

〒790-8577 松山市文京町3 (089-927-9316)

## ●会報投稿規定

- 1 愛媛資料ネットが発行する会報『記録と記憶』へ投稿できる原稿の内容は、文化財・歴史資料の救出保全活動及び調査、防災や地域史研究にかかるものとする。
- 2 投稿資格は、会員（本会の趣旨に賛同する者）とする。
- 3 本会事務局の編集委員の審査によって掲載の可否を決定する。
- 4 原稿の締め切りは、2月末日を原則とする。原稿は原則として本会宛に電子データをメールで投稿する（本会アドレス：ehime\_s\_net@yahoo.co.jp）

## 【編集後記】

愛媛資料ネット会報の第36号をお届けします。前号（第35号・2019年12月19日発行）から実に4年ぶりの発行となります。この間、コロナウイルス感染拡大の影響により本会の活動は大きく制限され、やむなく総会の開催や会報の発行などの事業を一時中止としてきました。会報の再開にあたり、紙面の装丁をリニューアルしてA4版・カラーとし、紙媒体からインターネット公開へと改め、年1回・毎年3月の発行を原則とします。また、今号から新たに「記録と記憶」のタイトルを付けました。歴史資料の救出保全活動のみならず、地域の歴史や記憶を守り、後世に受け継ぐための手がかりとなる情報を幅広く発信できる媒体を目指します。

さて、令和6年は年明け早々に能登半島地震が発生し、大きな被害が出ています。被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地では、いち早く関係団体や専門家・研究者が集まり、ワーキンググループが組織されました。改めて資料ネットの意義が問われているといえます。本会も他の資料ネットや諸団体と連携しながら、被災地の資料救出保全活動に協力していきたいと考えています。

（川島佳弘）

### 愛媛資料ネット会報 記録と記憶 第36号

発行日 2024年3月31日

編集・発行 愛媛資料ネット（代表：胡光）

編集委員：川島佳弘、胡光、中川未来

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

愛媛大学法文学部日本史研究室